

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：医学部保健学科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 教育の実施対体制については、平成24年度からの4年間で医系教員7名を含めて8名の教授が退職する中で教育体制をどう維持するか、次世代を担う教員の育成をどう進めるかを検討する。教員全員が「次世代の教員育成が最大の使命である」という共通の認識をもち、教員自らが病院等で継続して臨床経験を積み、教育に還元できる体制を構築する。教育方法・内容に関しては、医学科、薬学部との共通教育や岡山大学病院と連携したシミュレーション教育を継続・拡充するとともに国家試験問題をもとにしたCBTを3専攻で実施し、岡山大学独自のCBT問題を作成する。個々の科目の目的、意義がわかるようカリキュラムマップを作成する。学習の成果を評価し、これを教育に還元するために独自のCBT問題を作成し、平成25年度からは本格実施できるようにする。就職支援に向けた学生支援は現在の体制を継続する。さらに、優秀な学生学穂のため、「学科長と語る会」を継続して行うとともに、「保健学研究科フォーラム」を高校生向けにして高校生や一般市民を主な対象としたものにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員体制の維持に関して、平成25年3月で退職する教員の後補充ができ、平成25年度については教育体制を確保できた。 ・看護学分野の助教2名が岡山大学病院で臨床実務を行い、平成25年度には助教3名が臨床実務を行う予定である。また、看護学分野の医系教員2名が平成25年度から岡山大学病院の診療科長を兼務することになった。 ・医学科、薬学部との共通教育を引続き行い、岡山大学病院と連携してシミュレーターを使った新人看護師教育も行ったが、学部教育でシミュレーターを活用するまでには至らなかった。 ・Computer based testing (CBT)本格実施にむけて、国家試験レベルの問題を使ったCBTを3専攻で実施し、岡山大学独自のCBT問題も作成した(下記)。 ・各科目の目的、到達目標と位置づけはシラバスに明記したが、カリキュラムマップ作成には至らなかった。 ・「学科長と語る会」には高校生が13名訪れた。 ・オープンフォーラムでは参加した高校生から海外留学について積極的に質問があり、例年になく盛り上がりが見られた。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
教育の成果はまず国家試験合格率に反映されるので、国家試験合格率100%が目標、就職率についても同じである。しかし、岡山大学が掲げたDPの達成度は国家試験合格率や就職率だけでは評価できないので、DP達成度も評価できる独自のCBT問題を作成する。	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験合格率、就職率を100%に維持することが当面の目標であるが、教育内容・方法の改善、CBT等を通して岡山大学卒業生の水準を全国トップレベルにすることが第Ⅱ期中期計画期間の最終目標である。そのために、岡山大学独自の問題によるCBTを行って、学習目標達成度を評価するとともに、CBTの結果を教育方法の改善に還元するシステムを構築する。平成24年度は岡山大学独自の問題を使ったCBTが実施できるようにすることが目標である。	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験は、看護師は77名全員、保健師は85名中84名、助産師は10名全員が合格した。診療放射線技師、臨床検査技師の発表はまだだが、全国平均よりは高い合格率になる見込みである。 ・就職率は看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の全てで100%を達成できた(大学院進学を含む)。 ・CBTについては過去の国家試験問題を使ったものを3専攻とも実施し、看護学専攻では聖路加看護大学が科学研究費で実施しているCBTにも参画したが、参加校の中で全学生が参加したのは岡山大学だけだった。また、独自のCBT問題の作成と入力も完了し、平成25年度のどの時期に実施するかの日程を調整中である。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験合格率、就職率を100%に維持すること。岡山大学独自の問題を使ったCBTを実施すること。	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 医療関係者、一市民を対象とした講演会、研修会等地域社会との交流は従来どおり進める。上記の高校生や一般市民に焦点を当てた「保健学研究科フォーラム」も社会貢献につながる。国際交流の基盤づくりのため、保健学研究科で学術博士が取れるようにする予定であるが、それにはまず研究論文を質量ともに向上させることが先決である。	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健学科長と語る会」の参加者は平成24年度は13名で、目標とした30名には及ばなかったが、これは例年4～5名来訪する3年次編入希望者(平成23年度は15名中5名)がなかったことも関係している(対象となる短大等がなくなった)。来訪した高校生は非常に意欲が感じられ好感ももてた。また、これまで来たことがない白綾高校や朝日高校の生徒も来訪した。 ・「保健学研究科フォーラム」に参加した高校生は35名だったが、留学についていくつも質問があり、これまでになく盛り上がったフォーラムになった。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
「保健学科長と語る会」の参加者が平成23年度は20名を越えたので、これを30名以上に増やす。「保健学研究科フォーラム」に参加する高校生を50名以上に増やす。	

【総括記述欄】

・全体的にみて年度目標はほとんど達成できた。平成25年度からCBTを本格的に実施すれば、学部教育が充実すると期待している。